

営農情報

平成 29 年 4 月

出荷制限解除でシイタケ産地再生へ

今春より本格的に収穫、販売開始

JA椎茸部会は3月28日、通常総会と露地栽培原木椎茸出荷制限解除通知交付式を行いました。震災後、県から出荷制限指示が出され、生産再開に向け平成26年から「原木椎茸生産再開チャレンジ事業」に取り組み、県の要領に基づき生産。検査を受けて28年に2人、29年に9人が制限解除となり、一関農林振興センター林業振興課 遠藤正志課長より解除通知書が交付されました。佐々木久助部会長は「生産できる喜びを胸にシイタケ産地再生に向け部会一丸となって努力していく」と力を込めました。



解除通知書の交付を受ける佐々木部会長



出荷制限解除となった生産者

販売金額2億3800万円目指す

JAりんご部会通常総会

JAりんご部会は3月23日、通常総会を開きました。平成28年産の販売数量は、春先の天候不順の影響で前年比77.9%と伸び悩みましたが、全国的な不作から高単価となり販売金額は前年比94.4%となりました。29年は早生・中生種の前進出荷と相対販売に積極的に取り組むことを確認しました。総会で果実品評会の入賞者14人と優良生産者25人が表彰されました。



表彰を受ける果実品評会入賞者

ハウス内環境制御で多収化へ

施設野菜環境制御研究会を設立

JAは3月2日、野菜の施設栽培環境制御研修会を開き、果菜類生産者など約30人が参加。県農業研究センターの藤尾拓也氏による講義では、作物の光合成能力を最大限に高めることが増収につながるとして、ハウス内環境のモニタリングを行い作物のストレス低減することで多収化を実現できると説明をしました。JAでは施設野菜環境制御研究会を設立し今後も研修を継続していきます。



講義に耳を傾ける参加者

けい酸質肥料(土壌改良剤)で、よい土、よい稲、うまい米!

生産資材ひろば

けい酸質肥料のはたらき

丈夫な稲をつくる

- 根、茎、葉を丈夫にして倒伏や冷害、高温障害に強い稲をつくります。
- 窒素の過剰吸収を抑え、稲体を丈夫にします。
- けい化細胞を増加して、いもち、ごま葉枯病、ニカメイチュウなどの病害虫の被害を軽減します。
- 葉が直立するので受光態勢が良くなり、登熟歩合を高めます。

おいしいお米をつくる

- 登熟を良くし、米粒中のたんぱく質含有量を低下させ、おいしいお米をつくります。
 - ミネラル分が高まり、おいしさを長く保てます。
- 畑作物も収量・品質が向上
- けい酸、石灰、苦土が土壌中のりん酸の肥効を高めます。

- 麦類、とうもろこし等についても水稲と同様の効果がありサトイモ、玉ネギ、ダイコン等の根菜類に対しては、収量・品質向上に効果があります。

JAでは「ケイカル」「シリカ未来」「けい酸加里」等のけい酸質肥料を取り扱っています。

詳しくはJA各営農経済センターまでお問い合わせください。

